

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	隣近所との交流を、今後更に深めていきたいと同時に、気軽に立ち寄れる事業所を目指していきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護セミナーの場で、グループホームこすもすの事業に理解していただき、認知症についても理解していただくとともに、相談会を開き、地域老人のために福祉貢献している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員全員で、自己評価及び外部評価が介護サービスの向上のために不可欠であることを理解している。毎年の外部評価、自己評価により、更なる介護サービス向上を目指し、サービスの改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組み状況の報告や意見交換をし、率直な意見・要望・助言をいただいている。会議内容は議事録を作成し、参加者配布、施設内では回覧し、確認している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の職員を講師として派遣依頼し、地域住民、利用者、家族が参加の「介護セミナー」(こすもす主催)で講演してもらうことで、市町からバックアップ体制のもと、サービスの質の向上に取り組んでいる。また、ホームでのイベント活動(防災訓練など)にも市の職員をお呼びし、サービスの質の向上に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターの職員を講師として派遣依頼し、講義や勉強会などで職員全員が権利擁護に関する制度の理解と活用について十分理解し、常に問題意識を持って職務遂行にあたり、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会を設置し、定期的に勉強会を行い、虐待防止に努めている。日常の中でも精神的変化、身体的変化に目を配り、早期発見を心がけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学时及び契約時に契約するうえで、必要な事柄に関し、誤解のないよう十分に説明し、不安と疑問がないかを確認、理解と納得を得て利用いただいている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置、面会時には、直接利用者の状態を説明するとともに、家族の考えや意見を言えるよう声かけし、必要であれば、運営推進会議へ議題として取りあげ、クレームについて、可能な限り速やかに対応している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には現在の状態を職員より説明しており、必要であれば電話にて連絡を取りあっている。金銭管理については家族と相談のうえ、金銭を利用者個人で管理している方もいる。事業所にてお預かりしている金銭は、小遣い帳を利用者ごとに作成し、定期的に家族に報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見や不満、苦情を遠慮なく言えるような社内体制を築いている。意見箱を設置、面会時には直接利用者の状態を説明するとともに、家族の考えや意見を言えるよう声かけし、必要であれば、運営推進会議へ議題として取りあげ、クレームについて可能な限り速やかに対応している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングを行い、運営方法、改善点があれば、自由に意見・提案を出し合える機会をもち、良い提案があれば、実行できるものから随時実行している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	イベント事や利用者の状態に応じて、随時、管理者、職員で話し合い、柔軟に調整作業を行っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者、職員間の人事異動については、社の方針として必要最小限にとどめ、利用者本位の人事体制を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長は、管理者・職員が自由に内部・外部研修が受けられるよう、研修日数の確保と研修費用の援助などのバックアップやJ・O・T形式で、常に職員の介護技術および質の向上に努めている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設に見学に行く機会を作り、良いものはこちらでも活かせるように、ミーティングなどで発表している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	施設長は管理者・職員が快適な職場環境のもとで働けるよう、職場環境の整備、施設長とのコミュニケーション作り、状況に応じて、職員同士の食事会等を開くことで、日頃のストレスの解消に最大限努めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	施設長は管理者、職員が資質の向上のため、状況に応じて、職員との個人面談を実施し、各自の勤務態度・職務遂行能力・業績を反映した給与形態(昇給、賞与)をとっている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居を希望された際、本人と面会し、身体、精神状態を確認すると共に、不安に感じていることや本人の介護ニーズが何なのか聴取している。また、不安が少しでも軽減できるよう、ホームでの生活を細かく説明し安心感を持っていただき、出来る限りご希望に添えるよう努力している。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回時の電話による問い合わせ、見学時、インテーク等で利用者、家族の置かれている状況を理解し、入居までの経緯や何が一番困っているかを聴取。一つ一つの質問に細かく丁寧に説明し、できる限り不安を軽減できるように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム見学の来られた際に、迷っている様子が見られたときには、施設の説明のみではなく、利用者、家族の置かれている状況を理解し、小規模多機能やデイサービスの担当者からも説明してもらえるよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が慣れるまでの間、利用者の不安軽減のため、職員が他の利用者との間に入り、円滑にコミュニケーションが図れるよう配慮する。利用者にあったサービスを計画するため、外出等の機会を増やし、状況に応じては面会の回数を多くする等、ストレスにならないように徐々に家族と相談しながら行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であることを、管理者、職員が認識し、ホームを第二の我が家、職員を第二の家族として、24時間衣食住をともにする中で、喜怒哀楽を共有することにより、支えあう関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホームにおいて、家族は支援する立場だけではなく、不可欠な協力者であり、三位一体のコミュニケーション作りに取り組んでいる。利用者の精神状態を把握しながら、家族と連絡を取り合い、家族に無理がない程度に協力をいただいている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用を開始することで、本人と家族が疎遠になることがないよう、また、利用することで、逆に利用者と家族の関係がこれまで以上に上手くいくようにするためにも、管理者、職員が本人と家族の中に入って、円滑に調整できるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が生活環境を最大限維持できるように、知人や自宅周辺をドライブする等、今までの生活を継続できるよう努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士のコミュニケーションがとりやすいよう、ホールでの座席の位置や性格、相性、身体の状態を配慮して決定し、コミュニケーションが幅広くとれるよう職員が間にはいり、支援を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	地域密着型になり、誰でも気軽に入れるアットホームな場所として、地域に提供している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で本人からの意向を聴き取り、日常の言動を観察することによって、その人の求める暮らし方を把握することに努めている。また、家族とも話し合う機会をもち、よりよいケアマネジメントの構築に努力している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメントだけでなく、家族との電話連絡や面会の際に情報を収集している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケアプランに沿って支援する中、援助した経過と本人に対する日常の取り組み、状態、結果を、ケースや申し送りノートに記載し、情報を共有するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人には毎日の会話の中で、本人が希望する介護ニーズを探っている。家族から面会時に希望や不安の相談を聞いた場合には、月次のミーティングにてアイデアを出し合い、各利用者の担当職員を決めて、細やかなケアについて十分に検討し、介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6か月～12か月で再度立案しているが、3か月ごとに必ずモニタリングを行い、現在の計画が妥当であるか検討している。状態の変化が見られる場合は、再度カンファレンスを行い、必要時にプランの変更を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に健康状態、様子、ケアの実感、食事の状況、排泄状況を記入している。特に注意すべき点は、申し送りノートに記入し、情報を共有、実践に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	面会、外出、外泊等の時間の規定はなく、家族の生活時間を尊重し、いつでも対応できるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	外部ボランティアの活用、消防職員による避難訓練を実施している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人意向を踏まえ、よりよく暮らし続けるために、他事業所のケアマネジャーと話しあう等、必要な情報の収集を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターに、権利擁護について講習会を依頼し、協力をいただいている。また、定期的に行っている地域運営推進会議において、ケアマネジメント等について協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を密にし、随時、受診できるように支援体制をとっている。また、ホームでの健康状態を報告し、薬の調整、見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	毎週1回、連携病院である医師の回診があり、現在の状態に合った薬の見極めがなされ、利用者は馴染みのある医師に気軽に相談し、不安が軽減できている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員は普段、介護業務にもあたっているため、利用者との馴染みの関係でもあり、職員同士でも情報の交換がなされ、双方にコミュニケーションがとりやすい関係にある。情報交換により、必要であれば専門病院受診の情報を提供している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合、一週間後には面会に行き、現在の様子を把握、退院時には医師、理学療法士、ケアマネージャーとのカンファレンスで情報をうけ、退院後、なるべく早く生活に適應できるように準備している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した利用者の家族、医療関係者、施設関係者が話し合いの機会をもち、今後の方針を確認している。管理者は頻回に家族と連絡を取り合い、不安の軽減に努め、家族の意向に変化がないか確認している。また、職員とカンファレンスを行い、情報交換と方向性の統一化を図っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化してきた場合、利用者の家族、医療関係者、施設関係者が連携をとり、今後の方針について話し合い、チームとしての支援に取り組んでいる。また、急変時に備えて職員と検討し、対応できるよう準備を行っている。	○	今後もよりよく暮らしていただけるように、各関係者が情報の共有ができるよう話し合い、支援していく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族や転居先の担当者と連絡を密に取り、本人が転居後も快適に過ごせるよう状況やケアの特徴を記載し、ケアマネージャーが口頭でも詳しく説明、いつでも相談していただけるよう連絡先を伝え、継続的な介護が行われるよう支援している。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	<p>今以上にいろいろな方面より情報を集め、より深く利用者一人ひとりと関わることにより、本人主体の介護が支援できるよう努力していきたい。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのおものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別にトイレの声かけやオムツ交換を行い、利用者のプライバシーが侵害されることのないよう配慮を心がけ、排泄記録を記載することにより排尿パターンの把握に努め、できる限り、トイレでの排泄を促す努力をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は夜間を除き、いつでも利用者の希望により可能となっている。体調を確認しながら、順次声かけし、入浴を行っている。入浴を嫌がる場合は、タイミングをみて、定期的に入浴ができるよう努力している。また、入浴の介助方法を統一し、混乱が起こらないよう配慮している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人が自由な時間に居室でゆっくり休息できるように配慮し、安眠や休息を支援している。昼夜逆転が起こった場合等は、興味のあるレクリエーションに参加を促し、外出や体操等で体を動かすなどの工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人や家族からの聴き取りにより、利用者ができることのできる能力維持を心がけ、自分のペースで行うことができるよう支援している。また、外出支援を定期的に行い、場所は日常の会話から意向を聴き、決定するようにしている。ベランダのプランターを使用して、定期的には花や野菜の植え替えをしたり、家事が好きな方には、食事作りや洗濯掃除等の家事にも積極的に参加を促している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々のお金を預かっているため、外出時の買い物で自主決定し、買い物ができるよう支援している。その際、小遣い帳を作成しているため、定期的に家族の確認をもらい、理解を得ている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に外出や散歩などを支援している。気候がよければ、当日の利用者の意向も踏まえ、柔軟に外出している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	団体での外出だけでなく、個々の意向をとりいれた外出を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの依頼によっては、不都合が生じる場合も考えられるためできないが、利用者の状態に配慮しながら、可能な方には希望時に電話等のやり取りができています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	利用者に面会があった場合には、ゆっくり時間を過ごせていただけるように、場所の確保や季節、嗜好にあった飲み物の提供をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、勉強会を行い、拘束について理解を深めている。定期的に勉強会を予定しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	階段がある出口には、観葉植物等であまり目につかないよう見守りを強化し、安全に配慮できる状況を作り、開錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は職員同士、声をかけ合い、見守りを行い、夜間は定期的な巡回を行っている。危険が考えられる利用者には、本人、家族にも同意のうえ、ドアにすき間を持たせ、様子が把握できるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	消毒薬の使用は利用者の近づく可能性の少ない夜間に行い、入浴時のボティソープ、シャンプー等は、共に使用後すぐに手の届かない場所へ保管している。刃物に関しては職員見守りのもと使用していただき、使用後は片付け、包丁は夜間帯のみ、目の届かないところに保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の状態や状況に対し、職員、家族より不安や意見が出た場合、職員と共に対応方法を考え、事故の防止に努める。リスクマネジメント委員会により、これまで発生したヒヤリハットをもとに事例検討等の勉強会を実施しており、定期的な勉強会を予定している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応委員会を設置し、勉強会を行っている。避難訓練時、防災訓練や救命救急士による救急対応の指導を実施している。これからも定期的な勉強会を予定。急変が起こり得る利用者に対し、介護職員と看護師の情報交換が密に行われている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急対策委員会により、防災訓練を年2回実施している。消防署の指導を受け、災害時の対応を理解、緊急時に近隣の協力が得られるよう支援活動を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時には、起こり得るリスクについて家族に説明している。利用者の状態に変化があった場合には、その都度、家族に説明し、理解、協力を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状態は職員全員が把握しており、毎朝の申し送りにて情報を共有している。毎朝のバイタルチェックや様子観察により、異常を早期発見し、職員全員に周知できている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者に服薬時間に仕分けした薬箱を使用し、袋一つ一つに名前、日付、服用時間を記載、誤薬のないよう服薬支援を行っている。また、看護師と連携をとりながら、病状の変化により、回診時、処方の見直しを行っている。(緊急時には随時、連携医師と連絡をとり、見直しを行っている。)		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表を利用して、職員が排泄状況を把握できおり、水分補給や適度な運動、食物繊維の多い食事の提供を行い、排便を促している。便秘にならないよう早期に対処している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、ハミガキの誘導を実施している。口腔ケアが困難な利用者には、職員が介助し、可能な方には夜間の義歯消毒を毎晩行っており、口腔内の清潔は保たれている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事や水分の摂取状況を表に記録し、過不足状態を把握している。不足している場合には摂取する回数を増したり、捕食の摂取を促している。また、食事のメニューはおやつも含め、管理栄養士によりバランスのよい献立が作成され、職員が本人の嗜好や摂取状態にあった形状にて提供できている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策委員会を中心に感染症に対するマニュアルに従って、職員全員が対応できるように勉強会を実施しており、今後も定期的に行う予定である。市町からの指導・通達をもとに注意喚起を図り、感染症の予防につなげている。外出後や毎回の食前、就寝、起床時には、紅茶でのうがいを実施、声かけを行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は毎日新鮮なものが厨房より提供され、冷蔵庫にて保管している。冷蔵庫は清潔を保てるようアルコールにて消毒、食事作成時には衛生的な服装を着用し、ハンドグローブを活用している。調理器具や食器の熱処理、台所周りの消毒を心がけ、感染予防マニュアルに従って実行している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ユニットの玄関には季節の花や飾りを置き、来客時、明るく、親しみやすい玄関周りを工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダには、利用者と共に花屋へ行き選んだ花や野菜を植え、育てており、テーブルには外出時にもらった花や、家族が持ってきてくれた花、水栽培で育てているもの等を常時置いている。また、水槽で金魚を飼い、生活感のある快適な空間を提供している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には、畳敷きの場所やソファ、マッサージ機を活用し、思い思いに過ごせる場所が確保されている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具や家具、テレビや写真など、利用者の好みの物があれば自由に持ち込んでいただき、使い勝手のよい配置に家具を置き、安全で安心して生活できる快適な居室づくりを心がけている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、換気を行い、必要に応じて行っている。また、エアコンにて温度調整を行い、居室は各利用者の状態に合わせた温度調節を心がけている。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで、廊下、トイレ、浴室には手すりを設置、ベッド脇にも必要に応じて設置している。ベッドは使用する方に合わせ、対応できる昇降、リクライニング対応のものが使用されている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	弱視の方でも判断しやすいように、トイレや浴室の手すりに赤いテープを貼布している。また、トイレの場所が分かりやすいよう手書きのポスターや、日付の把握には手作りのカレンダー、日めくりを貼布し、少しでも混乱がなく生活ができるよう支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには、定期的に利用者と共に近くの花屋で購入した季節の花や苗木を植え育てており、コミュニケーション作りや毎日の水やり、世話等、役割作りができています。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

運営理念に従い、利用者と職員が同じ空間の中で、家族のような存在と感じあえるように対応し、各フロアごとに理念を設け、職員が明るく向上心をもって、業務に努めている。また、各地域住民と馴染みの関係をつくり、今後、より良いこすもすとするために、運営推進会議や市、包括支援センターの助けを得ながら、前向きに取り組んでいる。